

ところで

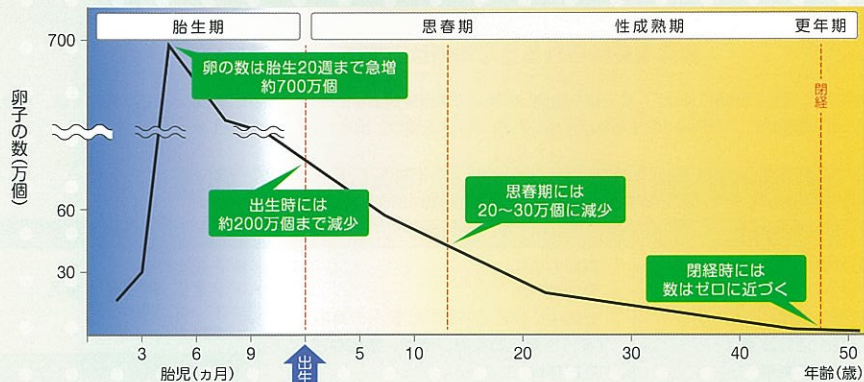
ご存じですか？ 妊娠・出産には適した年齢があります



卵子は、出生後は新たに作られることがなく、質・量ともに低下し続けます。そのため、年齢とともに、妊娠しにくくなったり妊娠の異常が起きやすくなります。

ライフプランを考える中で、子どもを持つ時期についても、早くから考えておきましょう。

女性の各年齢における卵子の数の変化



Baker TG(1972) Gametogenesis. Acta Endocrinol Suppl 166:18-42を基に厚労省で一部改変
 出典：「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと～健康で充実した人生のための基礎知識～」
 平成24年厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)
 「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究」

不妊症について

近年の晩婚化などを背景に、不妊治療を受けるご夫婦が増えています。

不妊治療の1つである体外受精などの生殖補助医療の治療周期数は年間32万件を超え、2012年には、生殖補助医療による出生児は37,953人で全出生児の約3.7%を占めています。*

*日本産婦人科学会2012年ARTデータ集、人口動態統計(2012年)による。

不妊症とは・・・

「避妊をしていないのに2年以上妊娠しない状態」をいいます。

避妊をせずに性生活を送っている場合、1年で80%、2年で90%が妊娠するとされています。つまり、約10%のご夫婦が不妊症といえます。



不妊症の原因

妊娠が成立するためには、卵子と精子が出会い、受精して着床する過程で、多くの条件が整う必要があります。不妊症は、これらの過程のいずれかに異常がある場合に起こります。

例えば、精巣で精子を作ることができない場合や精子の通り道に問題がある場合、排卵がうまくいかない場合、受精卵の着床ができない場合などがあり、いくつかの原因が重なり合っていることもあります。WHO(世界保健機関)の発表では、男性側の原因が24%、女性側の原因が41%、両方の原因が24%、原因不明が11%とされています。原因に応じて、手術や投薬、治療が行われますが、必ずしも全ての方で妊娠が成立するわけではありません。

ご夫婦の問題として、一緒に検査や治療を受け、そして、どこまで受けるかを考えていく必要があります。

不妊症の検査

不妊症の検査には、次のような検査があります。

<女性側の検査>

検査の多くは月経周期に合わせて行われます。ひと通りの検査を終えるのに数カ月かかることもあります。基礎体温をつけて受診の際に持参するとよいでしょう。

○内診・超音波検査

子宮や卵巣に異常がないかを確認します。

○子宮卵管造影検査

X線による透視をしながら子宮内に造影剤を注入し、子宮の形や卵管が閉塞していないかなどを検査します。

○血液検査

ホルモン検査や全身疾患に関係する検査を行います。ホルモンは月経周期によっても変化しますので、月経期・黄体期などに分けて検査します。

○腹腔鏡検査

必要に応じて、カメラを入れて子宮・卵巣をはじめとする骨盤内臓器の状態を確認します。また、卵巣嚢腫などがある場合には切除することも可能です。

<男性側の検査>

○精液検査

精液量、精子濃度、運動率、運動の質、精子の形態などを検査します。

○泌尿器科的検査

精液検査の結果で異常があった場合、泌尿器科で問診、視診・触診などを行います。

この他、必要に応じて、血液中のホルモン検査、染色体・遺伝子検査を行うこともあります。



女性の年齢別の不妊治療における分娩率・流産率

「いつでも子どもは持てる」と思いがちですが、女性の年齢が上がると、不妊治療を受けてもなかなか妊娠しないことが分かっています。また、年齢が上がるほど生産率は低下します。「なかなか赤ちゃんが授からないな・・・」という時は、まずはご夫婦でお医者さんに相談してみましょう。

<体外受精・胚移植等の治療実施状況>



(日本産婦人科学会2012年ARTデータ集を基に秋田県で作成)



不妊とここでの相談センター

不妊に関することで、迷ったり、悩んだり、こころが痛んでしまった時に気軽に話していただけるよう相談窓口を設けています。予約制の面接相談と、電話による相談があります。詳しくは、こちらをご覧ください。

美の国 不妊とここでの相談センター

検索